

2022年度事業における進捗状況確認シート 抜粋

【めざすべき姿Ⅰ】【基本目標1】お互いを尊重し合う意識の醸成 【基本施策Ⅰ-1-1】男女平等参画に関する市民意識の向上

担当課	取り組み内容	取り組み実績	前年度との比較や変更点	当年度評価	前年度評価	評価の理由	課題	5次計画の新たな視点
1 男女平等推進センター	○インターネットを通じた情報発信を行う。 ○新聞折込の情報紙の発行を行う。 ○男女平等関連の図書、映像資料を購入する。	○男女共同参画週間、「女性に対する暴力をなくす運動」期間の周知をホームページ、Facebookにて行った。 ○夏のリコチャレ(女子学生向け理工系分野紹介イベント)の周知をホームページにて行った。 ○新聞折込、市民センター等で配布を行う「町田市男女平等推進センターだより」を発行した(発行部数10万部)。 ○男女平等関連の図書、映像資料を購入した。 図書購入:20冊、図書貸出:284冊 映像資料購入:2本、映像資料視聴:72回		★★		○市主催のイベントだけでなく、関連事業についても、積極的に情報発信を行ったため。 ○デジタル機器を持たない方にも見ていただける紙媒体の情報紙の発行、センターにて閲覧が可能な資料の収集・提供を行ったため。	○市ホームページ以外での積極的な情報発信方法も検討する必要がある。	デジタル技術 <input checked="" type="checkbox"/> 男性へのアプローチ <input type="checkbox"/> 多様性の尊重 <input type="checkbox"/> SDGsの推進 <input checked="" type="checkbox"/>
2 子育て推進課	○父親と子どもを対象としたイベントや育児講座の実施。 ○保育付きの育児講座の実施。	○父親向け育児講座を計11回実施し、87名の父親の参加があった。 ○保育付きの育児講座を24回実施(うち5回は連続講座)、延べ73名の参加があった。		★★		○親子でのスキミング、講師による講座等、参加者のニーズに合ったプログラムを企画したことや、父親同士が情報交換する時間を設け、子育てを通じたつながりが持てるような働きかけを行ったことで、参加者から好評であった。 ○保育付きの育児講座を実施することで、より集中して受講することができ、保護者のスキルアップにつながった。また、参加者同士が情報交換をする時間を設けたことで、その後の交流につながった。	○父親向けの子育て情報などの発信について、他自治体の取り組みを研究していく。	デジタル技術 <input type="checkbox"/> 男性へのアプローチ <input checked="" type="checkbox"/> 多様性の尊重 <input type="checkbox"/> SDGsの推進 <input type="checkbox"/>
3 指導課	○教職員向けの研修を検討する。 ○男女平等推進センターと連携し、男女平等参画に関する資料提供があった際は児童・生徒にタブレットでの配信などを行い、適宜情報提供することを検討する。	○男女平等推進センターと協議し、2023年度に開催する生活指導主任会の中で、教職員向け研修を実施することとした。		★★		○教職員の担当者に主旨などを丁寧に説明し、次年度に研修を実施する予定となったため。	○教職員の興味・関心を惹く研修内容を検討する必要がある。	デジタル技術 <input checked="" type="checkbox"/> 男性へのアプローチ <input checked="" type="checkbox"/> 多様性の尊重 <input type="checkbox"/> SDGsの推進 <input type="checkbox"/>
4 保健予防課	○HIV・性感染症検査及び保健指導を実施 ○ホームページでHIV/エイズ、梅毒等について周知	○検査は実施できず。受検の相談があった際は他の検査実施場所を案内した。ホームページで他の検査実施場所を周知した。 ○HIV/エイズ、性感染症の検査相談についてのホームページアクセス件数:8,662件		★		○新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、町田市のHIV・性感染症検査の実施はできなかったが、次年度再開に向け検討及び調整を行った。 ○市民が性感染症予防を意識した生活が送れるようにホームページの内容更新を行い、アクセス件数は昨年度に比べ増加した。	○感染対策・電子化等の新たな方法を取り入れた検査体制を確立する必要がある。	デジタル技術 <input type="checkbox"/> 男性へのアプローチ <input type="checkbox"/> 多様性の尊重 <input type="checkbox"/> SDGsの推進 <input type="checkbox"/>

【めざすべき姿Ⅰ】【基本目標2】配偶者等からのあらゆる暴力の根絶

担当課	取り組み内容	取り組み実績	前年度との比較や変更点	当年度評価	前年度評価	評価の理由	課題	5次計画の新たな視点
5 男女平等推進センター	○配偶者等からの暴力防止に関する情報発信を行う。	○市民センター等の公共施設や百貨店などの民間事業所の女性トイレに、女性悩みごと相談周知カードを設置し、相談先の周知を行った。 ○11月の「女性に対する暴力をなくす運動」期間にDVに関する情報発信を行った。 ・広報まちだへの記事掲載 ・市ホームページでの情報発信 ・市庁舎イベントスタジオ、男女平等推進センターでのパネル展示 ・市庁舎パープルライトアップ ・男女平等推進センター職員のパープルリボンパッチ着用 ・JR町田駅でのポスター掲示 ○市内の大学と交渉し女性悩みごと相談周知カード・ポスターの設置、掲示を行った。 ・桜美林大学(ポスター掲示) ・昭和薬科大学(カード設置)		★★★		○大学や、民間事業所の協力を得て、啓発を行うことができたため。 ○新たに駅でのポスター掲示を行い、多くの方の目に触れる場所での周知を行うことができたため。	○暴力を容認しない意識づくりのため、啓発情報を目にする機会を増やす必要がある。	デジタル技術 <input type="checkbox"/> 男性へのアプローチ <input type="checkbox"/> 多様性の尊重 <input type="checkbox"/> SDGsの推進 <input type="checkbox"/>
6 市民病院	○被害者との面談を行う。 ○関係機関や地域との連携を図る。 ○「虐待防止委員会」にて情報共有を行う。 ○「虐待防止委員会」にて院内連携ツールの見直しを行い、院内に周知する。	○2022年度DV相談件数 3件 ○2022年度児童虐待通告 16件、関係者会議18件 ○虐待防止委員会 年4回開催 ○虐待防止講演会 年1回開催		★★★		○虐待が疑われた場合には早急に院内会議を開き、状況に応じて通告、関係機関や地域と情報共有を行った。 ○「虐待防止委員会」にて院内連携ツールの見直しを行い、取り組みを強化することができた。	○DVが疑われたとしても、本人の了承を得ることができない場合には関係機関に連絡を取ることができず、支援につなげることが難しい。 ○「虐待防止講演会」にて対応力向上を目指す。	デジタル技術 <input type="checkbox"/> 男性へのアプローチ <input type="checkbox"/> 多様性の尊重 <input type="checkbox"/> SDGsの推進 <input checked="" type="checkbox"/>
7 産業政策課	○市民や事業者へ情報提供するにあたり、国や東京都等が発行している事業者向けのチラシ・冊子などを市の関連施設に設置した。 ○東京都労働相談情報センター八王子事務所との共催で、「働く人のための労働法セミナー ～新型コロナウイルスをめぐる労働問題も含めて～」を実施した。	○チラシ等配置先 産業政策課窓口、生活援護課、町田商工会議所、町田新産業創造センター ○セミナー参加者数は62人(2日間合計)		★★		○速やかに情報提供を行うことができたため。 ○新型コロナウイルスをめぐる労働問題や労働法制など最新動向も踏まえて実施できたため。	○事業者の方が情報を入手しやすいように、情報を整理したうえで提供する必要がある。 ○多くの方に参加していただくために、周知を強化する必要がある。	デジタル技術 <input type="checkbox"/> 男性へのアプローチ <input type="checkbox"/> 多様性の尊重 <input type="checkbox"/> SDGsの推進 <input type="checkbox"/>

【めざすべき姿Ⅱ】【基本目標1】雇用や職業等の場における男女平等参画の推進

担当課	取り組み内容	取り組み実績	前年度との比較や変更点	当年度評価	前年度評価	評価の理由	課題	5次計画の新たな視点
8 男女平等推進センター	○町田市仕事と家庭の両立推進企業賞(または類する事業)を実施する。	○市ホームページで企業賞の事業説明や募集、過去の受賞企業の取組などを掲載した。		★★		○企業賞の選考等は実施したが、エントリー企業の辞退があったため。	○近年応募企業が少ないため、事業の仕組みについて検討する必要がある。	デジタル技術 <input type="checkbox"/> 男性へのアプローチ <input type="checkbox"/> 多様性の尊重 <input type="checkbox"/> SDGsの推進 <input type="checkbox"/>
9 男女平等推進センター	○女性のための就職準備セミナーを実施する。	○ハローワーク町田と共催で「女性のための就職準備セミナー」を実施した。 実施回数:5回 延べ参加人数:81人 ○東京しごと財団と共催で就職支援に関するイベントを実施した。 実施回数:2回 延べ参加人数:24人		★★★		○ハローワーク町田との共催セミナーを、パソコン講習や面接対策など、さまざまな内容で実施することで、就職活動に必要な技能や情報を伝えることができた。 ○東京しごと財団共催イベントでは、参加者が実際に企業の話聞く機会を設けるなど、貴重な機会を提供することができた。	○引き続き、就職を希望する女性のニーズに合った情報を提供する必要がある。 ○求職者に届く情報提供の方法を検討する必要がある。	デジタル技術 <input type="checkbox"/> 男性へのアプローチ <input type="checkbox"/> 多様性の尊重 <input type="checkbox"/> SDGsの推進 <input type="checkbox"/>

【めざすべき姿Ⅱ】【基本目標2】仕事と家庭生活の調和に向けた育児・介護の支援

担当課	取り組み内容	取り組み実績	前年度との比較や変更点	当年度評価	前年度評価	評価の理由	課題	5次計画の新たな視点
10 保育・幼稚園課	○保育コンシェルジュが、市内の教育・保育施設の定期訪問を実施し、助言等を行うことで、保育の質の確保と向上を図る。 ○保育士等の相談窓口を新設し、保育コンシェルジュや保育士サポートロイヤーが助言等を行う。 ○デジタル技術による市民サービス向上と業務改善を行う。	○保育コンシェルジュによる園訪問:年間174園実施した。 ○保育士サポートロイヤーによる相談受付4件、研修2回実施した。 ○6件の手続きをオンライン化し、一時保育予約システムを導入した。		★★★		○保育コンシェルジュの取り組みに関しては、園の現状や悩みを把握し、助言等を行ったことで、園からは新たな気づきになったと評価を得た。 ○サポートロイヤー相談後のアンケートでは、全件でやや満足以上の評価を得た。 ○年間391件のオンライン申請を受け付けた。デジタル技術の導入に伴い、職員の時間外勤務が前年度比20%減少し、ワークライフバランスの向上につながった。 ○一時保育の予約システムを民間保育所等でも3月から利用可能とし、市民の利便性が向上した。	○さらなる保育の質の向上に向けた、園との信頼関係の構築。 ○多様な子育て家庭の多様なニーズへの対応。 ○SDGsに対応した申請システムの形成。 ○デジタル技術の活用による、業務のさらなる効率化。	デジタル技術 <input checked="" type="checkbox"/> 男性へのアプローチ <input checked="" type="checkbox"/> 多様性の尊重 <input checked="" type="checkbox"/> SDGsの推進 <input checked="" type="checkbox"/>
11 高齢者支援課	○高齢者支援センターでの介護に関する総合的な相談を受け付ける。 ○家族介護者教室・交流会を実施する。	○家族介護者教室を24回開催した。 ○家族介護者交流会を70回開催した。		★★		○家族介護者等に対し、介護方法や各種制度などについて学ぶ教室を実施できた。 ○家族介護者同士が情報交換等を行う交流会を実施できた。	○家族介護者等のニーズに合った、家族介護者教室や家族介護者交流会を実施していく必要がある。	デジタル技術 <input type="checkbox"/> 男性へのアプローチ <input type="checkbox"/> 多様性の尊重 <input type="checkbox"/> SDGsの推進 <input type="checkbox"/>

【めざすべき姿Ⅱ】【基本目標3】あらゆる分野における男女平等参画の推進

担当課	取り組み内容	取り組み実績	前年度との比較や変更点	当年度評価	前年度評価	評価の理由	課題	5次計画の新たな視点
12 総務課	○「附属機関等に関する調査」を毎年実施し、各附属機関等における男女構成比率を確認するとともに、市ホームページ上に附属機関等の委員の選任状況として男女構成比率を公開する。 ○「町田市附属機関等の設置及び運営に関する要綱」の規定に基づき、各附属機関等の所管課に対し、男女比率の適正化に向けた委員選任の取組を促す。	○「附属機関等に関する調査」を実施し、各附属機関等における男女構成比率を確認するとともに、市ホームページ上に附属機関等の委員の選任状況として男女構成比率を公開した。 ○委員選任前の段階で委員の男女比率の適正化に留意するよう、所管課に通知を行った。 【附属機関等の女性委員の割合】 33.3%(前年度から3.8ポイント増) 【女性委員のいる附属機関等の割合】 84.9%(前年度から0.1ポイント増) 【市民委員(公募含む)における女性の割合】 47.7%(前年度から0.1ポイント増) ※2023年4月1日時点		★★		○附属機関等の女性委員の割合が前年度と比べて増加した。 委員選任前の段階で委員の男女比率の適正化に留意するよう、所管課に通知を行ったこと等の効果が出たものと思われる。	○さらなる男女構成比率の適正化のため、委員選任前の段階で委員の男女比率の適正化に留意するよう、引き続き周知を行っていく必要がある。	デジタル技術 <input type="checkbox"/> 男性へのアプローチ <input type="checkbox"/> 多様性の尊重 <input type="checkbox"/> SDGsの推進 <input checked="" type="checkbox"/>
13 防災課	○避難情報や地域の防災活動をWEB媒体で配信するなど情報伝達・普及啓発のデジタル化に取り組む。 ○避難施設の女性参画の取組に加え、若年層や子育て世代を含む全市民を対象に、庁内関連部署及び関係機関と連携しながら、目的やニーズに応じた講習会を年間を通じて実施する。	○防災関係(特に災害時)の情報提供に特化したホームページ「町田市防災WEBポータル」について、2023年度の開設を目指し、 ①災害時における避難情報 ②避難施設情報(混雑状況も含む) ③緊急情報等 ④市内の天気や気象情報、ハザードマップなど災害時に役立つ情報の掲載準備を行った。 ○2023年3月31日から平常時における地域の防災力向上を目的としたホームページ「まちだ防災カレッジ」を開設し、 ①個人やご家庭で気軽に学べる講座などの様々な学習機会 ②地域の皆様と課題を解決するために実践した活動 ③町田市の全71避難施設の活動など平常時の普及啓発を行った。 ○地域防災を担う自主防災組織を対象に、研修会を2地区で開催し、避難施設の円滑な運営や女性人材育成について講習やグループワークを行った。		★★		○「町田市防災WEBポータル」では、災害時に緊急情報を発信するなど、実災害に向けた活用の準備をすることができた。 ○「まちだ防災カレッジ」では、研修会への応募申請を受け付け、多くの方にご利用いただけたことで、普及啓発のツールとして認知されることができた。 ○研修会では参加者がグループワークで、地域の課題抽出や自主防災活動の方向性の確認を行った。意見を全体に発表することで、共通認識を持つことができたことと多くの好評を得た。	○庁内関連部署及び関係機関と連携しながら、目的やニーズに応じた学習機会を展開したい。	デジタル技術 <input checked="" type="checkbox"/> 男性へのアプローチ <input type="checkbox"/> 多様性の尊重 <input checked="" type="checkbox"/> SDGsの推進 <input checked="" type="checkbox"/>

・進捗状況確認シートについて

各担当課が設定した取組内容に対して、2022年度に行った取組実績を踏まえ、4段階で自己評価し、評価理由、課題を記載しています(「5次計画の新たな視点」項目については各担当課に意識付けを行うことを目的としており自己評価に影響ありません)。

★…十分に取組むことができなかった

★★…概ね予定どおりできた

★★★…想定以上の取組を行い、成果につながった

★★★★…想定以上の取組みを行い、大きな成果を得た